

<p>1 学校教育目標</p> <p>自他の「いのち」を尊び、主体的に学び・行動する生徒の育成 ～一人一人の自己存在感を高めながら～</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①唐津市学力向上アクションプランに基づいた授業改善に取り組み、学力を高める。 ②あらゆる場面で規範意識(ルールやマナーを守る意識)を高める。 ③人権意識を高め、いじめや差別をしない・させない・許さない心情を高める。</p>
--	--

達成度 A：ほぼ達成できた  
B：概ね達成できた  
C：やや不十分である  
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価								学校関係者評価委員会から	
①規範意識(ルールやマナーを守る意識)を高める。									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員の 評価(A～Dで 記入)	意見や提言など
学校運営	○ 学校経営方針	学校の教育目標や教育方針の周知徹底。	・教職員、特に保護者へ具体的な取り組み内容を広報し周知をはかる。周知率88%を目標とする。 ・授業参観への参加を促す。 ・はなまる連絡帳へのアクセスで一日200件以上、月4000件以上を目指す。	・諸通信やHPなどの活用とPTA総会や参観日、懇談会等の機会を利用して広報を図る。 ・全保護者の65%出席を目標に、公民館と連携し、広報に努める。 ・はなまる連絡帳は、内容の更新を毎日行なう。	B	・はなまる連絡帳を活用している保護者も多く、諸通信を見ている保護者も8割近くいた。 ・唐津市教育の日等の参観は、50%以上である。 ・はなまる連絡帳は、プリント配布と並行して配信している。	・保護者の参観率を高めるために、PTA総会や家庭訪問などを活用し、保護者に学校の年間行事が周知されるようにする。また、学校通信や学級通信で学校の様子を伝え、学校への関心を高める。 ・案内通知を必ず1ヶ月前には配り、保護者が都合をつけやすくする。	B	・年間行事予定表を渡すだけではなく、家庭訪問の時に「この日は出来る限り参加してください」など、参観日や講演会を各家庭において説明したほうが良い。
	○ 危機管理体制の整備	危機管理体制の整備と関係機関等との連携。	・危機管理マニュアルの再点検と整備。 ・避難訓練や不審者進入対策訓練の計画的な実施。	・マニュアルの再点検といじめ防止の日常的な取組の確認。 ・PTA、警察、青少協等との連携と予防的行動の促進。 ・災害時の具体的避難行動の実践を行う。	A	・マニュアルの再点検を行い、定期的に生活アンケートや教育相談を行うことで、いじめ等の防止・早期発見に努めている。また、生徒会でもいじめ撲滅宣言を行うなど、自治活動により生徒の意識を高めていった。 ・PTAや関係機関等と連携し、巡回活動を定期的に行っている。 ・火災や地震、原子力防災訓練を行い、危機意識を高めている。	・自然災害や人災はどこにでも起こり得るという意識を全職員が常に持ち、アンテナを高くする。 ・年度末の新型コロナウイルス感染症による臨時休業に対する対応は生徒の意識も高く、大きな問題もなく過ごすことができた。	A	・定期的なアンケートの実施や、生徒会によるいじめ撲滅宣言や、生徒会活動が活発になり、生徒のいじめは許さないという意識が高まっているように思える。
	○ 保護者、地域との連携の充実	地域連携行事のより効果的で無理のない実施を図る。	・参加率の達成だけでなく、達成感や充実感のある行事をめざす。	・目的や意義を明確にして、地域や保護者との連携をより積極的に推進する。	A	・PTA各部会の会議に職員も参加し、職員もPTAの一員であるという自覚も高まった。また、小中合同のイベントにも積極的に参加する職員が増えた。	・今後も地域や保護者との連携を積極的に行い、達成感や充実感を味わえるイベントを企画していく。 ・地域清掃活動や校区運動会への参加などを中心に地域で育てる意識を高める。	A	・PTAの行事や会議への学校職員の参加は多くなってきている。
	○ 「開かれた学校づくり」の推進	意義やねらいを踏まえて地域と連携して実施する。	・保護者の評価で87%以上の達成率をめざす。 ・関心が高い内容の講演会・講習会の開催。	・地域人材の活用とともに、保護者や地域の方の参加により親子触れあい・地域ふれあいの機会とする。 ・地域の特性を生かしたヨット体験・魚さばき体験を実施する。 ・今日的課題による講演会・講習会の実施。	A	・85%の保護者が地域との連携が図られていると回答している。これは、親子ふれあいスポーツ大会などの保護者を巻き込む活動を多く設定しているためだと考えられる。 ・防煙教室や薬物乱用防止教室を実施したことで、生徒の健康に対する意識高揚と定着を図った。	・現在の生徒の興味関心の高い内容で、地域の人材を活用した取り組みを企画し、より開かれた学校づくりを進めていく。	B	・より連携が深まるように、子ども達の関心に応じて、「学校では〇〇みたいな人材を募集しています」など、広報活動をしてみるとよい。
	● 業務改善・教職員の働き方改革の推進	規範意識、モラルの高揚	・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 ・明るい雰囲気の職員室づくりをめざし、美化や環境を整備する。 ・使命感や責任感を強く持ち、教師としての力量を互いに高め合う職員集団の結成を目指す。	・会議資料の事前配布等により、全職員の共通意識を高める。 ・職員間の雰囲気が学校の雰囲気をつくるという観点から、日常の明るいあいさつと感謝のことが飛び交う職員室になるよう働きかける。 ・職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化をはかる。	A	・会議資料のペーパーレス化で、職員間の共通意識を高めることができた。 ・職員間のあいさつと感謝のことは、協力体制が整った雰囲気の職員室として機能することができた。	・今後も職員間の共通理解のもと、この取組をさらに充実させていく。	B	先生方の日常的な情報交換や、協力体制がより良い生徒指導につながるので、今後も継続してほしい。
教育活動	○ 生徒指導の充実	自律の心を育て、基本的な生活規律を守らせる。	・生徒会活動の活性化を図り、具体的方策に示している三つの基本項目で保護者評価がそれぞれ80%以上の達成率をめざす。	・あいさつ、時間を守る。中学生らしい服装の3つを基本項目として生徒会の点検活動や保護者協力等により指導の充実を図る。	B	・生徒評価で、服装は85%、あいさつ75%、時間をまもる79%の結果となった。今後も生徒の意識を高めていく必要がある。	・今後も職員間の共通理解のもと、生徒会の取組をさらに充実させ、基本的な生活習慣の定着を目指していく。	B	・服装や時間励行については良くなった。学校での取組と保護者への協力呼びかけを引きつけてほしい。
		関係機関との連携の推進を図る。	・早期の対応で問題行動の未然防止に努める。	・民生委員会及び児童相談所・警察等との日常的連携の充実を図る。	A	・定期的に情報交換を行い、生徒の問題行動への未然防止や早期発見・早期対応に努めている。	・関係機関との連携で、情報の共有のみで終わらず、全職員が同じ姿勢で学校での取組を徹底し、実践していく。	A	・生徒指導連絡会や民生委員会、保護司会、また警察との連携で得た情報をPTA執行部と共有し、生徒の問題行動の未然防止に役立っている。
②唐津市学力向上アクションプランに基づいた授業改善に取り組み、学力を高める。									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員の 評価(A～Dで 記入)	意見や提言など
学校運営	○ 教職員の資質向上	経験年数に応じた職務能力の向上をめざす。	・評価育成システムを活用し、資質の向上への意識づけのため面談を年間5回以上行う。また、計画的に校外の各種研修会(九州・全国)に積極的に参加させる。	・評価育成システム及びキャリアデザインの効果的運用を図る。 ・自己の課題に応じて個人テーマを設定し研修に努め、研究授業を一人一回以上実施する。 ・教職員の資質向上のために講演会を実施する。	A	・今後も、校内研修をもとに全職員の資質向上を図る。 ・校内研修や先進校視察により、職員の入れ替わりに影響されない職員一人ひとりの資質向上を目指す。	・今後も引き続き生徒たちの学力を向上目指して各教科で取り組んでいく。	B	・唐津市教育の日や授業参観において、生徒たちの学力を向上させようと、先生方が一生懸命に取り組んでいる姿が今年も印象的だった。書く活動ができていない生徒がまだ気になるので、先生方の研修を積んでほしい。

教育活動	● 学力の向上	基礎学力の定着, 学力の向上で進路実現をめざす。	・標準学力検査・学習状況調査等で前年度比上昇をめざす。	・県学習状況調査では県平均を目指す。 ・小中連携による授業規律の推進。 ・数学の基礎学力向上のための朝学習の工夫(教え合い等)。	C	・今後も立腰を継続し学習規律の確立と学習の姿勢づくりを確立させる。 ・放課後学習やサマースクール等、長期休業中の補充学習を今年度より数多く計画し、基礎学力の定着を図る。	・立腰を継続し学習規律の確立と学習の姿勢づくりを確立させる。 ・放課後学習やサマースクール等補充学習を多く計画し、基礎学力の向上を図る。	B	・休み時間と授業時間のメリハリができて静かな雰囲気での授業が進んでいることが嬉しい。
	○ 全国・県学力及び学習状況調査の活用	結果を分析し、校内研修の場で共通理解を図る。	・事前の取り組み及び意識づけを行い、前年度比上昇をめざす。	・テストの結果と学習状況の調査結果を保護者・地域にも公表し、特に家庭学習の充実を図る。学力向上推進教員による研修会を実施する。	C	・生徒の家庭学習への取組が課題である。校内研修・研究をすすめるとともに、生徒の家庭学習に対する意識を高める。	・生徒の家庭学習の取組が依然として課題である。 ・職員研修を利用して生徒の家庭学習に対する意識を高める研究を進める。	B	・生徒のアンケートにもあるように、家庭学習への取組で40.8%の生徒が「あまりしていない」と回答しており、家庭学習の取り組ませ方の工夫が引き続き必要である。
	○ 小中連携教育の推進	児童生徒や保護者の立場に立った連携教育の推進。	・生徒保護者の評価で70%以上の評価及び小中学校での授業公開と交流会を行う。	・小中合同研修会の充実と共に、児童・生徒間の交流及び年3回の教職員間の交流も図る。	B	・中学校における学習規律の定着については、9年間を見通した取組が大切であり、今後も小中の連携を進めていく。	・中学校における学習活動の充実のためには、9年間を見据えた取組が必要であるため、今後も小中の連携を深めていく。	B	・学校の教育活動の中で小中連携がされていると感じるが、今後さらに連携を深めてほしい。
	● 志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあるか答える生徒の割合を70%以上にさせる。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	・何となく日々を過ごす生徒が多く、将来の夢を持たせることが十分にできていない。	・進路学習や、卒業生による意見発表などの機会を増やして自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を行う。	B	・学校で学習した内容を積極的に家庭へ知らせてもらい、親子で進路について考える時間を持てるようにしたい。

③人権意識を高め、いじめや差別をしない・させない・許さない心情を高める。 学校関係者評価委員会から

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者 評価委員の 評価(A~Dで 記入)	意見や提言など
教育活動	● 心の教育の推進	豊かな心の育成	・ふれあい道徳を実施する。 ・人間関係に重きを置いた道徳教育を実施する。 ・人権・同和教育に関する講演会を実施し、人権・同和教育に関する生徒の意識を80%向上させる。	・道徳の授業において、学年ごとに人間関係に関わる項目を年間計画に計画的に組み入れ、認め合いを支え合う人間関係を構築する。(アンケートによる検証) ・教科、道徳、特別活動、総合的な学習、学校行事などで取り上げ、学校の教育計画の中心に位置づけ内容の充実を図る。 ・体験学習と関連付けて豊かな心を育成する。 ・人権・同和教育に関する講師を招聘し、意識化を図る。(アンケートによる検証)	A	・道徳のみならずすべての教科でグループ学習を取り入れ、対話的で深い学びを促す授業づくりを進めてきた。お互いを認め合うことを通じて自分や仲間を大切にする姿が見られた。 ・人権同和教育をはじめとして、全職員で仲間づくりを推進する研修を行うことができた。	・今後も、認め合うグループ学習の研究を深め、さらに生徒の自己肯定感を高め、自分や仲間を大切にすることを育てる。	A	・教室内や学校のあらゆるところに心の教育につながる掲示物があり、学校における人権教育に対する意識の高さを感じた。自分や相手思いやる心を育てるために、計画的な道徳や学級活動を今後も仕組んでほしい。 ・すべての授業においてお互いを認め合い、支え合って、自己肯定感を高める授業を展開してほしい。
	● いじめ問題への対応	教育相談体制を整え早期の対応でいじめの未然防止を図る。	・生徒や保護者の評価でいじめ「0」を目指す。	・計画的な教育相談期間の設定を行う。 ・教育相談の内容の共通理解を図る。 ・生活、いじめアンケートの実施 ・SCの専門的知見を活用した研修会の実施。	B	・年度当初部内のいじめ事案があり心配をしたが、迅速な対応ができ早期の解決に向かったことはよかった。 ・ネット上のトラブルがほとんどである、情報モラル教育を今後さらに推進していく。	・問題の原因がネット上のトラブルであり、情報モラル教育を今後も進めていくとともに、日常のささいなトラブルをひとつずつ解決していくようにする。	B	・いじめは、どの子にも、どの学校にも起こりうるという意識を再確認して、今後も落ち着いて生活してほしいと思っている。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 学校関係者評価委員会から

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者 評価委員の 評価(A~Dで 記入)	意見や提言など
教育活動	● 健康・体力づくり	・健康づくり ・望ましい生活習慣の形成 ・体づくり ・たくましい体の形成	・発育測定・生活アンケートを活用し、生活習慣の見直し、改善を図る。 ・全国体力・運動能力運動習慣等調査において前年度比上昇をめざす。	・発育測定や生活アンケートを利用し、保健・学活・道徳などの授業で健康について学習する。また、生活習慣について、防煙教室等の各種講演会を実施する。 ・体カテストの結果を分析し、体育の授業を通し、補強運動や補助運動を行い不足している体力の向上を目指す。また、部活動とも連携を図り基礎体力の向上に取り組む。	B	・生活習慣や健康についての各種講演会を、生徒の実態に応じて実施していく。 ・生徒の自己の体力状況を詳しく分析させ、体力向上をプログラムできる能力を育成する。	・専門的な講師による各種講座、教室を計画的に実施する。 ・昼休みのグラウンド使用を呼びかける。	A	・中体連において九州大会や全国大会に出場するなど誇らしいことである。 ・体育の授業のみならず部活動においても、継続して体力を向上させるプログラムを仕組んでほしい。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 ・生徒の学力向上と、時間を意識して場に応じた言動をとれる生徒の育成が必要である。まず、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習の充実のために保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAと連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目